

オンライン授業に向けた参考資料

オンライン授業のスタイルは大きく分けて3種類あります。

スタイル	授業形態	留意点
① 同期型授業	リアルタイムで教師の説明等を聞き、双方向のテレビ会議機能などを使って教室の一斉授業に近い授業をする。	通常授業に近い授業ができる一方で同期する時間が長くなると、生徒の目は疲れる。また各家庭の通信料負担が増える。授業を準備する教員の負担も大きい。
② 非同期型授業	教師が学校HPやYouTubeなどのインターネットサイトに動画をアップするなどして、生徒が都合の良い時間にアクセスしてそれを見て課題を提出する。	教員は対面講義とは異なる授業スタイルをとることが必要。 学生の履修状況の把握を、授業への出欠以外で把握する必要がある。
③ ハイブリッド型授業	授業の初めの数分で「同期型」で指示や課題確認を行い、その後提出期限を決めて課題を提出する。	授業目的、学習効果を考慮して授業形態について十分検討が必要。 アウトプットする「成果物」の提出を求めることで生徒に“やらざるを得ない”環境を作ることができ、成果物による評価もできる。

オンライン授業の実施を通して

- 無理をしない
 - 対面授業でやっていたことを完全に再現しようとしな
- 学生にも無理をさせない
 - アウトプットとコラボレーションが増えるように
 - 紙に書かせて画像を課題としてアップロードさせるなど、PC作業ばかりにならない工夫を
- 授業で身につけた能力の評価を重視する
 - こちらが何を教えたかだけでなく、学生が何を身につけたかを測る方法を考案する



これを受けて、自分なりにハイブリッド型授業を考えてみました。

気を付けること

- ※ 自宅で授業を受けている生徒の感覚を大切にする。
- ※ 「成果物」を提出させる。
- ※ 追究の参考資料を伝える。

授業の流れの例

1 チームスの「テレビ会議」機能を使って、活動内容を伝える。

(複雑な指示が必要なければ「テレビ会議」機能を使わずに、事前にプリント等で伝えておくかもしれません。)

「NHKforSchoolの『10minボックス日本史 縄文時代と弥生時代』の動画を見て、縄文時代の暮らしの特徴について、衣・食・住の三つの視点でシート①にまとめなさい。特に“三内丸山遺跡”のあたりの説明が参考になるよ。」

2 ここからはSchoolタクトを活用。

- ・シート①を含むこの日の授業プリントをSchoolタクトで「配布」する。
- ・Schoolタクトに入ってきた生徒を確認する。(この時入ってこない生徒は授業に参加できていないことがわかる)

3 Schoolタクトの「チャット機能」で追加の指示を出す。

「動画では紹介されていなかった縄文時代の暮らしの特徴を、衣・食・住・その他の四つの視点でシート②にまとめなさい。教科書、資料集、イーボード、ネット検索など、調べるツールは問いません。」

「縄文時代の人々の生活は、旧石器時代からどのように変わったか、30字程度で説明する最高の文をシート③にまとめなさい。」

4 授業時間内は「共同閲覧モード」で生徒同士のノートを見られるようにすることを生徒に伝えておく。(そうすることで、自宅でも授業時間に頑張っている生徒が得をする)

5 提出期限を伝える。

「提出期限は今日の16:00とします。それまでに「提出」ボタンを押しましょう。もし質問したいことがあれば、Schoolタクトのチャット機能で質問してください。生徒同士が個人間のコメント機能を使って質問し合うことも認めます。でも、すべてこちらから見えていることをお忘れなく。」

6 提出されたシート①②③をもとにその日の評価をする。

上記はあくまでも参考資料です。何かの参考になれば幸いです。

「 」の指示は事前に紙で配布したり、はじめにすべて伝えておいたり、Schoolタクトのワークシートに記しておいたりしてもよいと思います。

ほかには、「今日は『イーボード』の〇〇のページをやりなさい。」という指示だけでも、担任パソコンから生徒の学習履歴を見ることができます。教師の負担極小です。